

令和５年度 第４回 川崎市社会教育委員会議・中原市民館専門部会

日 時 令和６年２月１７日（土）

１３時３０分～

会 場 中原市民館音楽室

次 第

- １ 開会
- ２ 部会長あいさつ
- ３ 館長あいさつ
- ４ 資料確認
- ５ 令和５年度第３回専門部会の摘録（案）について
- ６ 議事
 - （１）令和６年度中原市民館市民自主学級・市民自主企画事業企画提案会
 - （２）令和６年度中原市民館市民自主学級・市民自主企画事業の選考 ※非公開
 - （３）令和４・５年度審議テーマ「ふらっと立ち寄れる市民館」のまとめ
 - （４）その他
- ７ 閉会

配布資料

- 資料１ 令和５年度第３回川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会摘録（案）
資料２ 令和４・５年度審議テーマ「ふらっと立ち寄れる市民館」報告書（案）

令和５年度 第３回川崎市社会教育委員会議・中原市民館専門部会 会議摘録 （案）

- 【日 時】 令和５年１２月１５日（金）１０時から１２時３０分まで
【会 場】 中原市民館１階グループ室
【出席者】 鈴木部会長、菊地副部会長、梶川委員、中道委員、但野委員、木村委員、日吉委員
【欠席者】 滝沢委員
【事務局】 福田館長、船津係長、大久保係長
【生涯学習推進課】 野崎課長補佐、関課長補佐
【傍聴者】 １人

専門部会の委員８人中７人が出席し、委員の過半数を満たしており、部会は成立。

- １ 開会
- ２ 部会長あいさつ
- ３ 館長あいさつ
- ４ 資料確認

資料１ 令和５年度第２回川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会摘録（案）

資料２ 市民館・図書館への指定管理者制度の導入に向けた検討状況について

参考資料１ 川崎市市民館条例の一部を改正する条例新旧対照表

参考資料２ 川崎市市民館に係る指定管理者の指定の手続等に関する規則

資料３ 川崎市制１００周年記念事業

資料４ 専門部会報告書（イメージ）

- ５ 令和５年度第２回専門部会の摘録（案）について

- ６ 議事

（報告事項）

ア 中原市民館の指定管理者制度導入に係る進捗状況について

イ 市民館と図書館合同で取り組む来年度の市制１００周年事業について

（協議事項）

ア 令和４・５年度審議テーマ「ふらっと立ち寄れる市民館」のまとめについて

・動画撮影ワーキングの進め方について

・「ふらっと立ち寄れる市民館」を実現するためのアイデアについて

・報告書作成に係る委員の役割分担等について

イ その他

- ７ その他
- ８ 閉会

<会議録・質疑応答>

1 開会

事務局（船津係長）

2 部会長あいさつ

鈴木部会長 体調不良につき、本日の進行は菊地副部会長にお願いする

3 館長あいさつ

事務局（福田館長）

4 資料確認

事務局（船津係長）

5 令和5年度第2回専門部会の議事録（案）について

事務局（船津係長） 資料1について説明（了承を得る）

6 議事

（報告事項）

ア 中原市民館の指定管理者制度導入に係る進捗状況について

生涯学習推進課（野崎課長補佐） 資料2、参考資料1、参考資料2について説明。

日吉委員 指定管理者制度移行後には、災害時に対する備えには、指定管理者の館長が関わることになるのか。

生涯学習推進課（野崎課長補佐） そのような形を検討している。あるいは、区の生涯学習支援課がモニタリングを行うので、その職員になる可能性もあり、確定はしていないが、誰かが参加するような形になる。災害の関係では、市民館全てが**帰宅困難者**一時滞在施設になるので、指定管理者が引き継いでいくことになる。

日吉委員 以前に水害が生じた際に、手洗いなども全て貸してもらった。そのようなことが引き続きしてもらえるのかというところが心配なので伺った。指定管理者への移行は、想像ができないこともあって利用者は心配だと思う。モニタリングもいつまでしっかり続いて生涯学習支援課の方がいつまで並走してくださるのかも分からないので心配である。

生涯学習推進課（関課長補佐） 指定管理者への移行が心配という声の背景に、市民館が民間になってしまうという不安があると聞くのだが、指定管理者制度は、**民営化**するのではなくて、民間が市長から委任を受けて市職員に成り代わって運営するので、公の施設であることは一切変わらない。十数年前に市民館の職員が教育委員会から区職員に切り替わったことがあったが、それと同様に、担い手の母体が変わるだけで、役割が変わるということは無い。モニタリングという言葉が離れるように聞こえてしまうのだが、運営については、**社会教育施設**であることに**変**

わりはない。これまでの地域との関わりであるとか、利用者の皆さんに関しては、サービスが変わることは無いと考えていただいて良い。よくある誤解の一つに、国鉄や電電公社の民営化と同じであると間違えてしまう方がおられるが、それとは全く違う。あくまで市の施設で市の**管理下で運営**を行っていく。現在も窓口業務が委託という形になっているが、同様に今度は全体が委託になる、ただし、委託だと行政に聞かないと判断できない部分があるので、その部分をすぐに対処できるように、権限を委任するのが指定管理者制度である。従来の委託制度だと、部屋を貸すことが可能か否かを行政に確認するのに数日を要する場合があります。指定管理者制度であれば権限が委任されているので、例えば災害の場合など、市民の方に施設を利用してもらうことを指定管理者自身が判断することができる。

日吉委員 どこかのタイミングで全面的に民間になることは無いという事か。

生涯学習推進課（関課長補佐） 位置付けが公の施設から変わる事は、絶対には言えないが、現時点では無い。

鈴木部会長 どこにメリットがあるのか。

生涯学習推進課（関課長補佐） メリットは、一番はマンパワーの補完を謳わせていただいている。**市の職員には定数**という定員がどうしてもあり、限られた人数で限られた事しかできないのだが、民間の力を借りることによって手数が増える。そうすると、今まで出来なかったことに職員があたることができるというのが一番のメリットだと思う。それと即時性。一定の権限を与えていることによって、指定管理者が独自のサービスを打ち出して、市長から与えられている権限の中で実施することができる。職員の専門性についても、これまでは職員を配置してから専門性を身に付けることになるが、指定管理者制度を導入することで、あらかじめ専門性を持った職員の配置を依頼することができる。

鈴木部会長 委託料の採算の関係で、配置人員が減る事などは無いのか。

生涯学習推進課（関課長補佐） **市民館**の人員の配置は指定管理者が行うが、行政が担っている職員の手を補っていくという考え方になる。指定管理者を導入することで、今いる職員を補強することができる。

鈴木部会長 市民プラザのプールが故障したままのことがあった。市が管理しているなら、なぜそのようなことになるのかという考えから、指定管理者制度への疑問が生じてしまう。

生涯学習推進課（関課長補佐） 市民プラザの件については把握していないが、指定管理者制度では、大規模な修繕工事は市が行うことになっている。そのような工事につ

いても、行政が行うと時間がかかる場合がある。予算の関係で優先順位が生じてしまうことや、より身体に危険があるような安全管理を先に進めるために、遅くなって御迷惑をおかけする場合があると推察するが、原因が指定管理者制度にあるということではないと思う。

菊地副部長 一度決まった指定管理者についての期限があるのか。

生涯学習推進課（関課長補佐） 施設によって期間は異なるが期限はある。短いものと3年。通常は5年。長いものと10年。市民館については5年を考えている。期間中の評価が次の選定の際の参考点になる。

菊地副部長 市民館によって指定管理者変わるのか。

生涯学習推進課（関課長補佐） それぞれの市民館で募集するので、全部違うところになる場合もあり、場合によっては、全部同じところになる場合もあり得る。

木村委員 **質問ではないが、配付された資料を見ると、見かけ上は固まっているように見えるが、中身は非常に危うい感じがする。**例えば、社会教育事業の決定や支援については、職員が日々市民と接している中で市民の状況を見ながら考えたりするもので、指定管理者が継続的に実施していくとしても、生涯学習支援課の職員が区役所にいるのならば、日々の市民との関わりがない訳で、果たしてそれで本当に事業ができるのか。具体的な事業をどの段階で、どのように決めていくのか。実施すると軽く言うが、職員は与えられているものをただ実施しているだけではなく、実施していく過程の中で新しい目が出てきて、それが花開いていくように、職員も日々の中で行っているのだと思うが、このようなさっぱりとした表現では、分かっているのか。これまでの市民館職員の市民との関わり方が伝わっているのかという疑問を持った。市民館がこれから大丈夫なのかというのが感想だ。そのあたりは生涯学習推進課としては、どのように考えているか。それと、市民館が本来やるべきことという表現があるが、区役所の生涯学習支援課がやるべきことならばわかるが、市民館がやるべきこととは何かと感じた。そこは苦言を呈したいと思う。

生涯学習推進課（野崎課長補佐） 木村委員がおっしゃっていただいた話は、いろいろところで伺っている。パブリックコメントでも相当な御意見をいただいた。そのような御意見に対して、我々としては、指定管理者制度を導入しても大丈夫だという事を、これからも答えていく必要があると思っている。今いただいたような市民の方の声がある事は重々承知しており、不安を払しょくできるように、頑張っていきたいと思う。

生涯学習推進課（関課長補佐） 資料にはいろいろな事を記載しなければならない。私は、

木村委員と同じく市民館に従事してきた。資料をみて不安を感じる部分があることは分かる。指定管理者制度への移行にあたっては、市民館職員と一緒に頑張って、マニュアルづくりなども進めており、きめ細かく、このようなところがポイントと言う記載を行っている。1つ1つの事業について、また、いま事業建てされていない分野をも含めて、先ほど話のあった、種から育てて、社会状況や従事する人間が変わっていく中で、課題も変わっていき、それをキャッチしながら事業を進めていくのが市民館だと思っているので、資料の表現とは別に、各市民館も一生懸命考えてくれている。現場にいる市民館と一緒につくっているのも、思いという部分はつなげていけると考えている。また、引き継ぎ期間についても、施設によっては1か月程度という場合もあるが、市民館については半年という時間を設けている。この期間は、今いる職員と一緒に、どんな仕事の仕方をしているのかであるとか、どんな事がポイントになるのかということを引き継いでいる期間となっている。

木村委員 **今回、専門部会委員は報告という形で指定管理の話を知っているが、私たちは市民館の応援団でもあるから、各専門部会の中で意見交換しないのは、もったいないと思う。これから各館を回ると思うが、各館の専門部会の方々に、意見をもらおうと良いのではないかと。職員の方でつくっているマニュアルも、ぜひ見せてもらいたい。**平成17年に受付業務を委託したときも、相当な混乱があった。電話対応業務だけでも相手方からは聞いたことがない**多方面にわたる専門用語**が出てくるので、多少の研修を受けた程度では対応できない。当時私は**振興**職員として従事していたが、**毎日どれだけ受付従事者を励まし続けたことか。**受付は市民館の顔なので、**最低でも1年間ぐらいいは励まし続けたと記憶している。**ましてや**振興**事業にまでとなると、すごい事になってしまうのではないと思う。受託者に専門性がある方が含まれていたとしても、例えば中原であれば、**中原についての専門性は無いのだから、それだけでも大変な事だ**と思う。**これまでの川崎の社会教育の歴史も踏まえていないとできないことが沢山ある。それ辺をきちんと認識していないと、これまで市民館に温かい目を向けてくれた市民の方に、そっぽを向かれてしまうことにもなりかねない。**市民館を支えようと思ってくれる人たちを増やしていかないといけない。単に仕事して請け負うというレベルではない。

生涯学習推進課（関課長補佐） 大事なポイントだと思う。業者への説明会などでも言い続けなければいけないと思う。指定管理を担う事が決まったところとも、丸投げではなくて、二人三脚でやっていかないといけないと思う。御意見を肝に銘じる。

菊地副部長 指定管理者の導入の時期が変更になって、中原市民館が令和7年度となった

ということは、ここがスタートになるのだと思う。引き継ぎも、他の館の参考になると思うので、その辺も踏まえて進めて欲しい。昨年度から委員をしているが、委員の皆さんは、市民館への愛にあふれている。そこは大事にしてほしい。時間も限られているので、次に進みたい。

イ 市民館と図書館合同で取り組む来年度の市制100周年事業について

生涯学習推進課（関課長補佐） 資料3について説明。

（協議事項）

ア 令和4・5年度審議テーマ「ふらっと立ち寄れる市民館」のまとめについて

・動画ワーキングの進め方について

事務局（船津係長） **前回の部会では**、中原市民館をさらに広く知ってもらうための取組の一つとして、**動画作成の話**をいただいた。これを受けて、専門部会で**動画**を作ろうという話になったと思うが、どういう体制で、どのように進めるのかについて、具体的な話がされておらず、ワーキングを作って進めていこうというところで**話は終わったと記憶している**。今回は、ワーキングの参加メンバーを選出することと、動画の内容についても、このような**内容にしたいという話をする**必要があると思っている。わずか4回の専門部会で**動画作成を具体的に**進めていくのは難しいため、**具体的には**、今後は専門部会の有志の方で構成する**ワーキングで進め、そこでの検討経過を専門部会に報告し、さらに意見をもらうなどのキャッチボールをしながら進めていくのがよい**と考えている。**本日は**、動画作成の方向性について議論していただき、**その議論の経過を報告書に記載する形に**できたらと思っている。今回は、ワーキングメンバーの選出と、どのような動画を作るべきかという2点について意見交換をしたい。

但野委員 **目的は**市民館を知ってもらうということだったと思う。

中道委員 皆さんで撮り溜めた動画を編集していただいて、PR動画にするイメージだったと思う。

日吉委員 私たちも知らない**様々な**サークルなどがあるので、そこに伺って撮影をするとか、サークル自身で撮影をしていただけるなら、そのような方法とか、ギャラリーでの展示もあるので、展示している団体の活動として撮影をさせていただいて御紹介できると、市民館に来たらこのようなことも出来ると気付いていただけるのではないかと。できる事なら、それをデジタルサイネージなどで流していただけると良いという話もさせていただいたと思う。文化協会の活動も知らない方もいるのでは。

梶川委員 この間、先日のなかはらコアまつりのイベントの方に集中してしまっていた。

日吉委員 今回の報告書では、進捗させる予定であることを記載し、ワーキングは粛々と進めると思うが、ワーキンググループのメンバーになるには任期が終わっても構わないのか。

事務局（船津係長） 専門部会のワーキングではあるが、ワーキンググループのメンバーに専門部会に参加する方が一人でも入っていれば、専門部会で報告できる。その報告を踏まえて、ワーキングを続けるということができさえすれば、メンバーは、むしろ**様々な立場**の方が関わってくれた方がよいと思う。ただ、全体で議論してもなかなか**まとまらないが、少数で集中的に議論することができるので、少数に**していくメリットはあると思う。時間も限られているので、ワーキングメンバーになってくださる方は挙手をお願いしたい。

日吉委員 動画作成だけでなく、動画に向けて、こんなところが撮れたらよいという話ができれば良いのだろうから、撮影とか編集とかは置いておいて、任期が切れても参加して構わないという方は参加していただけるとよいのでは。

木村委員 **私的にはできるだけみんなで参加したい。皆さんに連絡して、都合の合う方に参加していただければ良いのでは。**

事務局（船津係長） ありがとうございます。**会場を設定して、日程調整を行い、年度内に少なくとも1回は実施する方向で検討したいと思う。**

日吉委員 何か宿題がないと忘れてしまうので、こんな映像を撮ったらいいかなとか、こんな風に紹介できたらいいかなといったアイデアを持ち寄れると良いと思う。

木村委員 大体の映像時間はどの程度か。枠組みがあった方がアイデアを出しやすい。

日吉委員 ロングバージョンとショートバージョンがあっても良い。

鈴木部会長 調整はできるのか。

事務局（船津係長） 調整はできる。何分にするかとかは後でも**調整**できる。

木村委員 市民館を紹介するには、どのような内容がよいかを考えて**持ち寄る**ようにしては。

中道委員 3月にオープンキャンパスを実施するので、その機会にどうかと思う。展示の方が分からないが、体育室は容易に借りることができない。オープンキャンパスの時は体育室を借りられるので、その時に撮ってもらっても良いかと思う。

事務局（船津係長） これからはイベントがある時に、**日頃から意識してそれぞれの団体様でも撮影をしておいていただけると、それが集まって来てまとめられるというのがある。**市民館でも事業の中で**撮影しておくということもある。**

梶川委員 文化協会も市民館と協働で実施している事業がある。

木村委員 その機会に撮影してもらえばよいと思う。

- ・「ふらっと立ち寄れる市民館」を実現するためのアイデアについて

菊地副部長 これまで「空き会議室の活用」「文化協会やサークル連絡会の教室に一般の方が立ち寄っても構わない場合は、そのような表示をして参加していただく」「ラウンジで休んでもらう」などのアイデアをいただいた。どうしたら市民館に来やすくなるかという点について合意したい。

事務局（船津係長） 補足になるが、第2回の時にお出しした構成案に基づいて議論がされているが、報告書の構成として、多くの部分をコラボイベントの報告に割いた後、ワーキングに関して触れて、その他のアイデアについてというところで、ここでぎくばらんに出た意見を記載するような**構成**にできたらと思っている。その補足でいまお聞きしているところで、今の時点で思いついたりとか、ここをできたら「ふらっと立ち寄れる市民館」になるのではないかとかという案が出尽くすようになったら良いというのが狙いである。なければ、今、菊地副部長がおっしゃっていただいた事を列挙しておいて、締める形としたい。

木村委員 動画があれば、市民が楽しんでいる様子や交流している様子が写るし、それは一つとしてある。市民館はこれまで、**自分たちがしてきた仕事を外から見えるようにして来なかった**というか、これをやってきました！というような**アピールをして来なかった**。それをどういう形で表すかということだと思うが、ちょうど来年は**中原市民館の50周年に当たる**ので、ボランティアやサークル、文化協会、地域教育会議、PTAなどの**社会教育関係団体やいろいろな方たちの顔が見える**ような50年を振り返るような小冊子を、手に取って読みやすく、子どもでも理解ができるようなものを作り、配布する、図書館や行政機関にも置いてもらう。そのような事ができると、区切りにもなるし、**市民館を知ってもらったり、ふらっと立ち寄ってもらったりする**きっかけになるのでは。

鈴木部長 それを専門部会で作成するということか。

木村委員 それを作ったらどうかというアイデアだ。やれとかそういう話ではなく、**ふらっと立ち寄れる市民館にするためのアイデア**の一つ。職員も市民の方に育ててもらっている、私もその**職員の一人だった**ので実感しているが、その内側では、職員自身が学んで、身に付けていたり、考えたりという作業があり、走りながら仕事をしている現状があるが、そのような職員を育てる環境は絶対に必要だ。たとえば専門性を身に付けている人がいたとしても、中原市民館で実施するにふさわしい事業にしていく専門性と、**それにプラスして中原市民館ならではの独自性**のようなものが展開できる専門性を職員が身に付けていけるようにしていくことが必要で、そのような施設だという事を職員がわかっていないと、困るのは市民だ。

本来、享受されるべきものを**受けられないのだから**。お互いに意見を出し合いながら、他のセクションの人たちとコラボレーションして何かやっていたとき、振興係だけではなく**管理担当も含めた職員がそこに関わることで**、館としての事業になっていたり、館としての取組になっていたりする。ふらっと立ち寄れる市民館にするためのベースとして、それにふさわしい職員を育てていくということを市民館側がやっていくことがすごく大事だと思う。

但野委員 全然違う話になってしまうが気になっていたことがある。宇宙のワークショップの事業があったかと思うが、すごく良い企画だったと友達も喜んでいて。こんな良い話がこんなに近くで聞けるなんてと思ったとのことだったが、参加者が少なかった。図書館と市民館の連携をもう少し取っていただけたらと思う。例えば市民館のコーナーを作っていただくとか。企画が素晴らしかっただけにもったいないと思った。保育などの講座は参加者が多数いるが、もったいない講座もあるので、もう少しやり方があるのではないかな。連携していくことが大事だし、連携していくべき施設だと思う。

事務局（福田館長） いま**川崎市制100周年**のつながりで色々やっている。絵本作り講座も一緒にやったというのが今年度もある。それはルートが出来たことになるので、そういう御提案をいただいたが、どう思いますっていうことだと思う。お互いなので、こちらに図書館ブースをつくり、向こうに市民館ブースをつくって常時変えていく。内容が同じものでも良いし、違うものでも良いしと言うところで、何かできればと思う。

木村委員 以前は**図書館職員との連携・協力体制があり**、事業を実施する際、職員が企画を立てる段階で**このような事業を考えている**と図書館職員に話すと、関連する本を選び提供してくれたり、**事業が決まると、チラシやポスターも貼って事前のPR**をしてくれた。また、**実施段階では**、受講してくれた市民が図書館に行くと、**関連する本や講師の著書を出入口近くのラックに並べておいてくれた**。図書館としても、**関心を持っている利用者に本を届けられ、市民サービスにもつながる**。

但野委員 普段からしていたということか。

木村委員 普通のこととして**行っていた**。無くなっているのなら、復活させても良いのではないかな。今は市民館職員は**生涯学習支援課の職員**で区役所に属しているのだから、区役所とも連携できると思う。市民の生涯学習という観点で、区役所にPRコーナーを作ってもらえるなどできるのではないかな。

事務局（福田館長） 図書館での職務経験のある職員もいるので、無理のない形で始める事もできなくはないのではないかな。

事務局（大久保係長） ないです。大丈夫です。100周年に向けて3月にも講座を実施するとか、来年度も場合によっては図書館と連携して講座を実施して、いまちょうど良い感じで連携が取れ始めていて、100周年の打合せは定期的に図書館の職員と振興の職員で行っているの、今日いただいた話も踏まえながら、良い100周年にしていければと思う。

・ 報告書作成に係る委員の役割分担等について

菊地副部会長 次に、報告書作成に係る委員の役割分担として、報告書の構成や目次、執筆に係る委員の役割分担等について協議したい。

事務局（船津係長） 報告書については、ある程度の**構成までを提示**ということで、今回の**資料を用意した**。目次があるが、編集後記に関しては、必ず書いていただきたい。コアまつりの感想でも良いし、委員を2年間勤められての感想とか、何か言い足りなかったこととか何でも構わない。「はじめに」の部分は、鈴木部会長のお名前で作らせていただきたいところで、案として示しているが、御自身の表現などがあったら、お知らせいただきたい。構成としては、「ふらっと立ち寄れる市民館に向けた取組」でプレイベントの話を盛り込む。ふらっと立ち寄れる市民館にするためには、まずもって市民館の存在を知っていただくということが重要だという事を書いている。知っていただくためには、多くの人を集めるという根幹的な手法が、たまたま「なかはらコアまつり」が行われたので、そこに立ち寄った人を呼び込むことが、一つの相乗効果を得られる方法だろうという事を書いている。

その次に「実施にあたって」というところで、それぞれの企画のコーナーを設けて、ここに各委員の感想や経過を出来る限り盛り込みたいと思う、**ここは各委員の執筆**の御協力をお願いしたい。そのあとは「資料」ということで、ここには職員が出した企画書があるが、それを元に専門部会でお配りした企画書があるので、それらを**単純に添付**していきたい。その他、チラシを付けて、最後にどういう効果が得られたということで締めくくる形。もちろん、コラボ企画だけではなく、コアまつりそのものに参加されて役割を果たしていただいた委員の方もいらっしゃるの、コアまつりでの状況も記載したい。

次に「今後の展望」というところでは、(1)は動画の撮影として先ほど説明したことが書いてある。今日議論した、みんなで実施するところと、アイデアを宿題にするというところを書き添えたい。(2)その他のアイデアについては、このような表題になるか分からないが、木村委員がおっしゃっていた、職員の専門性の確保を前提とすべきというところや、但野委員がおっしゃった、図書館と市民

館との連携などについて、文章化して盛り込みたい。

基本的な構成として、このような形でよいかというところを今日議論していただいて、**内容がある程度充足した頃、それぞれの皆様に十分な時間をもって確認をお願いしたいと思う。各委員の執筆する部分は、ワード文書形式かテキスト形式で作成していただいて、メール等で御返送いただくような流れで完成させたい。**完成時期としては、3月末となっているが、2月の専門部会で最終的な案を提示できたらよいというスケジュールを考えており、提示できなければ、責任校正で3月末までに完成させるという形になろうかと思っている。

木村委員 「はじめに」は良いと思うが、テーマを決めるまでが長かったので、経緯を全部書く必要は無いが、このテーマに至った**経緯**を入れておかないと違和感がある。

事務局（船津係長） 「はじめに」で集約してしまった感がある。

木村委員 「はじめに」はあくまで「はじめに」にして、盛り込み過ぎないでほしい。

事務局（船津係長） 鈴木部会長の御挨拶のところが、その部分を表現している。

木村委員 それは駄目だ。部会長の「はじめに」には**それに留めてもらい、今期のテーマを決めた経緯についてきちんと書いておく必要がある。部会長が決めたのではなく、専門部会委員全員の総意として決めたのだから、長く書く必要はないが、そもそもなぜこれになったのかを書き、「ふらっと立ち寄れる」の方にずっと行けるようにしないといけないと思う。**あと違和感があるのが、いきなり**コアまつりのイベント企画が出てきてしまっているところ。また、一つの企画に1ページずつ割いていくのは違和感がある。**それと「編集後記」という名称がよいのかどうか。**全員が書くのならば、『ふらっと立ち寄れる市民館』についての各委員の思い**か。編集後記だと**ひと言という感じがする。**それと、どこの場面で書くか。コアまつりのところで書きたい方もいると思う。

事務局（船津係長） コアまつりのところで書いていただくのであれば、編集後記の部分は全体の感想に留めていただくとか。

木村委員 感想が良いのか。自分が書きたいところで書く方が良いのか。何とも言えない。

但野委員 思いと書くとなると、委員によって文章量がまったく違ってしまわないかと思うが、その辺りはどうするか。

事務局（福田館長） 2年間の活動の中で、コラボイベントが印象的な方と、この間の議論や市民館の変化が印象的だったというところなので、さきほど編集後記に御記載くださいと申し上げたが、皆さんの御意見がそれぞれあるのかなと思う。

木村委員 「編集後記」ではないような気がする。

事務局（福田館長） まとめて書くならば、「編集後記」とするかは別として、この位置では

ないか。この2年間やってきたこと、もしくはこの先に向けてということを書いていただくでも、それは委員の皆さまにお任せをする。

木村委員 どこにスポットを当てて書くかによって、**各人が異なる**観点から書かれると思うが、テーマに沿った形で**ご自身**の考えている事をつづってもらって、分量が多いとか少ないとかでは無く、率直な御意見として、専門部会でみんなと議論しているものとは別に、思うところを書くという形でよいと思う。

事務局（船津係長） 「編集後記」に代わる適切な表現があれば。

事務局（福田館長） 皆さんに書いていただいたものを見て、適切なテーマとなるものを付けるというのでも良いかと思う。最後は、何回開催したとか、委員はどなたでとなるが、その前のこの報告書を締めるところで、2年間どう関わられたというところかなと思う。それを思い出しながらでも、先を思っても良いが、ここに残しておきたい事をぜひ入れていただきたい。それを見せていただいて、「編集後記」でなくとも、「この2年間を振り返って」でもよいかも知れないが、そこは検討して、皆さんにお諮りして決めていくのが、皆さんが書く内容を制限しないで済むことになると思うが、いかがか。

但野委員 テーマは「ふらっと立ち寄れる市民館」でよいのか。

木村委員 報告書に記載することなので、そこはズレてしまうとおかしくなってしまう。思っていたり、テーマを通じて自分が考えたことだったり、次に伝えたい事だったりというのは、それぞれが書いて、ここにふさわしいネーミングを付けていただくということで良いのでは。

菊地副部長 では、よろしいですか。

木村委員 写真をいくつか入れてもらいたい。文字だけだと寂しい感じになるので。

事務局（船津係長） **了解した。**

日吉委員 イベントの発案についても、どうしてこれを思いついたのかところが書いてあると、今度こんなことを相談してみようという考えにつながるのではないか。

事務局（船津係長） **了解した。**

事務局（福田館長） 企画を作った時の思いというようなものとか、やってみてとか、参加者の方からの印象に残っている言葉とか、その辺りを入れて、このように開催した。160人の参加があったということを写真とともにまとめたい。

イ その他

無し

7 その他

事務局（大久保係長） 第4回は市民自主学級・企画事業の提案会が同時に行われる。令和

6年2月17日とさせていただき、時間は昨年度と同じく13時から委員の皆様
にどのような団体が来ているか説明をさせていただいて、13時30分から提案
会を1時間半程度見込んで、15時ぐらいとさせていただく。終了後、休憩を挟
んで専門部会に移行して、市民自主学級・企画事業の審査会をさせていただい
て、その後、「ふらっと立ち寄れる市民館」の更なる検討という流れで進めさせ
ていただきたいと思います。いまのスケジュールは、直前に皆さまにお送りするの
で、2月17日13時にお集まりいただければと思っている。

菊地副部長 企画の締切はいつになるのか。

事務局（大久保係長） 1月19日だ。その段階である程度、どのような提案がそろい予算
の調整等済んだ後で、皆さまにはなるべく早く、昨年度同様書面でお送りした
い。

日吉委員 ワーキングの日程などは。

事務局（船津係長） 場所と日程の案を作成した後、皆さまにお諮りして**決める**という形に
なると思う。他に無ければ、以上で第3回中原市民館専門部会を終了とする。

8 閉会

(案)

令和 4 ・ 5 年度

報告書

ふらっと立ち寄れる市民館

令和 6 （ 2 0 2 4 ） 年 3 月

川崎市社会教育委員会議 中原市民館専門部会

**令和４・５年度
川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会報告書
ふらっと立ち寄れる市民館**

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
テーマの選定について・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
ふらっと立ち寄れる市民館に向けた取組について・・・・・・・・	P 3
1 なかはらコアまつりコラボ企画「ふらっと立ち寄ろう！中原市民館」の企画 実施について・・・・・・・・・・・・・・・・	P 3
2 今後の展望・・・・・・・・・・・・・・・・	P 11
（仮）委員から一言・・・・・・・・・・・・・・・・	P 13
委員名簿、実施経過・・・・・・・・・・・・・・・・	P 15

はじめに

川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会（以下、「専門部会」という。）は、社会教育法、川崎市社会教育委員条例、及び川崎市社会教育委員会議規則の規定により、社会教育施設の円滑な運営を図ることを目的に設置しています。

8名の委員により構成される専門部会では、各委員が所属している団体や活動状況は様々です。そのような中で、委員それぞれが中原市民館を利用して感じていること、地域や社会教育、生涯学習に関し課題や疑問に思っていることなどについて、熱意を持って思いを伝え合い、意見交換を行いました。

今期は、改めて、専門部会の位置付けや役割、中原区の現状や中原市民館の施設及び社会教育振興事業の実施状況などについての全般的な理解を深めていくことから始め、時間をかけて調査研究テーマの絞り込みを行った結果、「ふらっと立ち寄れる市民館」とし、その実現を目指して更なる議論を重ね、活動を行ってきました。

本報告書では、テーマ選定の経緯、テーマの実現に向けて委員のほか職員も一丸となって実施したイベントの内容や今後の展望について、そして、各委員、この2年間で感じ、考え、行動したそれぞれの思いも込めて、まとめあげました。

また、専門部会では、市民自主学級、市民自主企画事業の選考も重要な役割となっているため、調査・研究については限られた時間でしたが、各委員には真摯に議論をいただくことができました。

この報告書は今期の専門部会の経過をまとめたものですが、今後の中原市民館の未来と、中原区のまちづくりの発展につながることを期待いたします。

部会長 鈴木 保

テーマの選定について

今期のテーマの選定にあたっては、中原市民館が令和7年度に指定管理者制度の導入が予定されていることもあり、様々な観点から意見が出された。

「指定管理者制度に移行する前に、市民館のよさをきちんと総括しておく必要があるのではないか。」「指定管理者制度が導入されると、どう変わるのか。」などの委員からの疑問や不安などもあり、教育委員会生涯学習推進課の職員から制度移行に関する説明を受け、質疑を行った。

その他にも、中原区ガイドマップから小杉駅周辺地区の開発動向、川崎市の総合計画の抜粋資料や、他館の専門部会報告書など様々な資料を参照しながら、中原市民館を取り巻く地域の課題をみつけて解決に向けた話し合いをするために、テーマを模索し続けた。

「この2年間で何をやっていこうか、どういうことをしてこうかということ、語りたい」という委員の思いから、「大切にしてきたこと、大切にしたいと思っていること」などについても意見を交わした。

また、委員の所属する団体などが異なるので、広く意見を募り、議論を進めた。

委員からは、市民館の重要な役割は、人と人のつながりであり、キーワードとして「生きがい」「市民同士のつながり」「ふらっと立ち寄れる」「敷居が低い」などで議論できるとよいとの意見などが挙げられた。

その後も、「生きがいづくりを見つけられる市民館」「これからの市民館に期待するもの」など、テーマの候補がいくつも挙がる中で、会議終了後にも委員同士で話をするなど、活発な議論が行われ、今すぐではなく、10年後やそれ以降を見据え、区民の夢や希望を育てるような市民館になっていくことが大切ではないかという方向性が見出された。

そして、「ふらっと立ち寄れる市民館」は、堅苦しい感じではなく、敷居も低く、市民館が、どんな世代にもつながるのではないかと。そのような、ふらっとな場所になるとよいのではないかとということから、テーマとして選定するに至った。

ふらっと立ち寄れる市民館に向けた取組について

1 なかはらコアまつりコラボ企画「ふらっと立ち寄ろう！中原市民館」の企画実施について

今期の専門部会のテーマである「ふらっと立ち寄れる市民館」とするには、まずもって市民館の存在を知っていただくことが重要であり、そのためにできることを着実に実施しつつ、ふらっと立ち寄れる市民館とするためのアイデアを併せて提案し、実現可能なものから実施を積み重ねていくことにより、区民の夢や希望を育てるような市民館にしていくという考えの元、協議を重ねた。

令和6年、川崎市は、100周年を迎えることからプレイベントとして、令和5年8月26日に中原区における川崎市制100周年記念イベント実行委員会の主催で、「なかはらコアまつり」が開催されることとなった。

そこで、こすぎコアパークを中心に行われる「なかはらコアまつり」と同じ実施日に、中原市民館でもコラボイベントを企画することで、コアまつりで来場した市民の方を少しでも中原市民館に誘導することができれば多数の集客を見込める、言い換えれば、「なかはらコアまつり」とのコラボ企画として実施することで、中原市民館から徒歩2 - 3分のところにあるお祭り会場から、ついでに足を運んでみようかという市民に来館してもらい、市民館の職員と専門部会委員が協働して行う企画に参加してもらうことで、市民館の存在を知ってもらうとともに、市民館の魅力を知ってもらうことができ、そのことにより、「ふらっと立ち寄れる市民館」になるための第1歩を踏み出すことができるのではないかと考えた。

実施にあたって

実施にあたって、職員がコラボイベントで実施する企画の検討を行い、「100人の方に中原市民館を見ていただく」プロジェクトとして専門部会で提案し、専門部会委員との協議を通じて、イベント内容を精査し、ふらっと立ち寄ろう「中原市民館」として、実施することとなった。

企画内容と当日の様子

(1) 16mm映写機の映写体験

今はあまり使われなくなった16mm映写機を展示し、映写機が動いている様子や映写機そのものを見学するほか、作品の上映を行い、昭和レトロな映像を懐かしんでもらった。



(2) こわい話で涼もう！

イベントの開催日程が夏の盛りであったことから、和室を使用して「夜の市民館でこわい話を聞いて、ヒヤッと涼しくなる感覚」を楽しんでもらった。



(3) かるたつりで遊ぼう！

川崎の歴史、風土を題材にし、市制80周年を記念して平成16年度に制作された郷土かるたである「かわさきかるた」を体験！

釣り竿を使ったかるたつり遊びで、川崎の文化や特色を再認識してもらった。



（４）あなたの着付けをお手伝い！

「なかはらコアまつり」の来場者が気軽に浴衣や着物で参加できるよう、市民館で着付けや髪結いのお手伝いを行った。着替えの場所としてグループ室を提供し、着替える前の服は市民館でお預かりした。

（５）缶バッジを作ろう！

缶バッジの作成機を使って缶バッジ作成を体験してもらい、作ったバッジは、参加者に持ち帰ってもらった。当日は、中原区地域教育会議子ども会議子ども実行委員会（通称たんぽぽちゃ）のメンバーに協力をいただいた。



（６）デジタルスタンプラリー

各部屋のドア付近もしくは室内に設置されたQRコードを各自のスマートフォンで読み取り、すべて達成した参加者に景品を渡した。

（７）バルーンアートワークショップ

バルーンアートを経験したことのない初心者の方には空気の入れ方からサポート。小さなお子さんには、腕などに付けられるバルーンをプレゼントした。



(8) ベっこうあめづくりを見学！

料理室でベっこうあめづくりを行い、その様子を見学してもらった。参加者には、1個ずつプレゼントした。



なかはらコアまつりの様子

中原市民館で実施したコラボ企画だけではなく、なかはらコアまつりそのものに参加し、ブース内の掲示物の掲出やビデオの上映、チラシの配布、なかはらコアまつり参加者との交流などにより、貢献していただいた。



イベントの成果

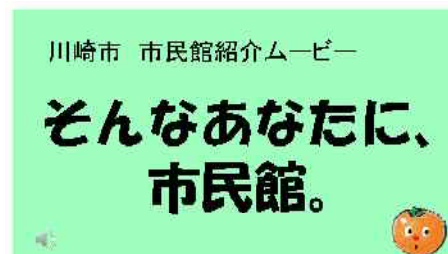
当日は、中原市民館に160人の参加があった。

委員からは、なかはらコアまつりの参加者に中原市民館を案内しようとした際、「場所はある」といっていただき、存在が認識されていると感じた」という声もあった。

なかはらコアまつりコラボ企画 ふらっと立ち寄ろう「中原市民館」プロジェクト（案）

1) 企画概要

チーム分け	A 会場（こすぎコアパークチーム） B 会場（中原市民館チーム）
実施場所	なかはらコアまつり出店ブース（A 会場）及び中原市民館内（B 会場）
対象	お祭りの来場者で中原市民館に来たことのない方、本企画に関心を持った方
方法	【A 会場】 ブース前で展示や広報物の説明・市民館チラシ配布・市民館への誘導やPR／常時3名以上 【B 会場】 市民館内の確保場所でイベントを実施 ／ 各部屋に2名以上 【共 通】 ふらっと立ち寄れる市民館とするためのデジタルアンケート実施（配布物に QR コード記載・後日回答可） ・B 会場は、夜間区分でグループ室、実習室、和室、料理室、児童室、第4会議室、第5会議室を確保済み。1階ラウンジや格子戸の前の利用も可能。 ・従事するスタッフは目安 1 時間ごとに交代する。 ・来館した方に提供できる景品や飲食物があると来館する動機につながる。
実施アイデア	1 6 mm 映写機による投影、バルーンアート、缶バッジ作成、100人しりとり、かるた釣り、こわい話（怪談話の朗読）で涼もう、スタンプラリー、市民館ツアー、料理室で〇〇、市民館紹介動画ループ再生など ※リストは現段階でアイデアベースのもの。参加にあたっての事前申込は不要とする。
実施目的	●「市民館を知ってもらう」ための活動の展開・情報発信 ●「ふらっと立ち寄れる市民館」とするためのアイデアをアンケートから集約
主催	コラボ企画の主催は中原区役所生涯学習支援課（中原市民館）
日時	2023 年 8 月 26 日(土) 祭り開催時間 16:00～20:00 予定 市民館でのイベント開催時間は 17:30～20:30 予定
備考	市民館の夜間の利用区分が 17 時 15 分からのため、準備時間 15 分程度で完了できる会場レイアウト作成が望ましい。難しければ B 会場は 18 時からとする。来年度は、川崎市 100 周年、中原市民館開館 50 周年、中原市民館新館移転 15 周年となることを周知できるよう工夫する。今回は 100 周年に関連付け、100 人のふらっと来館者数を目標人数としたい。



2) 実施に当たっての課題

- ・各部屋でどのようなイベントをするかのコンテンツ準備
- ・必要な材料や物品の調達
- ・事前準備を進めるための役割分担決め（レイアウトチーム、広報チラシ準備チーム、スタンプラリー作成チーム等）・当日参加可能スタッフのリストアップ及び当日の配置や役割分担決め・当日タイムスケジュールの作成、QR アンケートの作成等

来館者プレゼント

引き換え場所：中原市民館 第6会議室

このチラシを持参してイベント開催時間中に中原市民館にお越しの方においしい防災食品（クッキー又はわかめご飯のいずれか）をプレゼント！なくなり次第終了となります。

プレゼント
引換券

「なかはらコアまつり」コラボイベント

ふらっと 立ち寄ろう！ 中原市民館

当日21時までコアまつりと
コラボしたイベントを開催します

8月26日（土）18：00～21：00

場所：中原市民館（コアまつり会場から徒歩約3分）

すべてのイベントは予約不要。無料で参加できます。

アクセス



バルーンアートワークショップ

風船ドクターが作り方を教えてくれます。作った作品は記念に持ち帰って自慢してください。

デジタルスタンプラリー

スマホでご参加いただけます。QRコードを読み取り、スタンプラリーを開始してください。キーワードを全部集めてゴールすると先着100名様にオリジナルグッズを進呈！

休憩スポットで休もう！

未就学児をお連れの方に児童室を休憩場所として開放。冷房の効いた室内で疲れた体を休めてください。

あなたの着付けをお手伝い！（15：30～18：00）

自宅から浴衣や着物を来ていくのは大変。市民館にご持参いただければ、着付けをお手伝いします。着てきた服は館でお預かりします。身軽にコアまつりに参加できます。

協力：中原区文化協会

缶バッジを作ろう！

缶バッジ作成を体験！作ったバッジは持ち帰れます。

協力：たんぼぼちゃ

16mm映写機の 映写体験

今はあまり使われなくなった16mm映写機。昭和レトロな映像をお楽しみください。

かるたつりで遊ぼう！

釣りざおを使って「かわさきかるた」を体験！川崎の文化も学べます。

こわい話で涼もう！

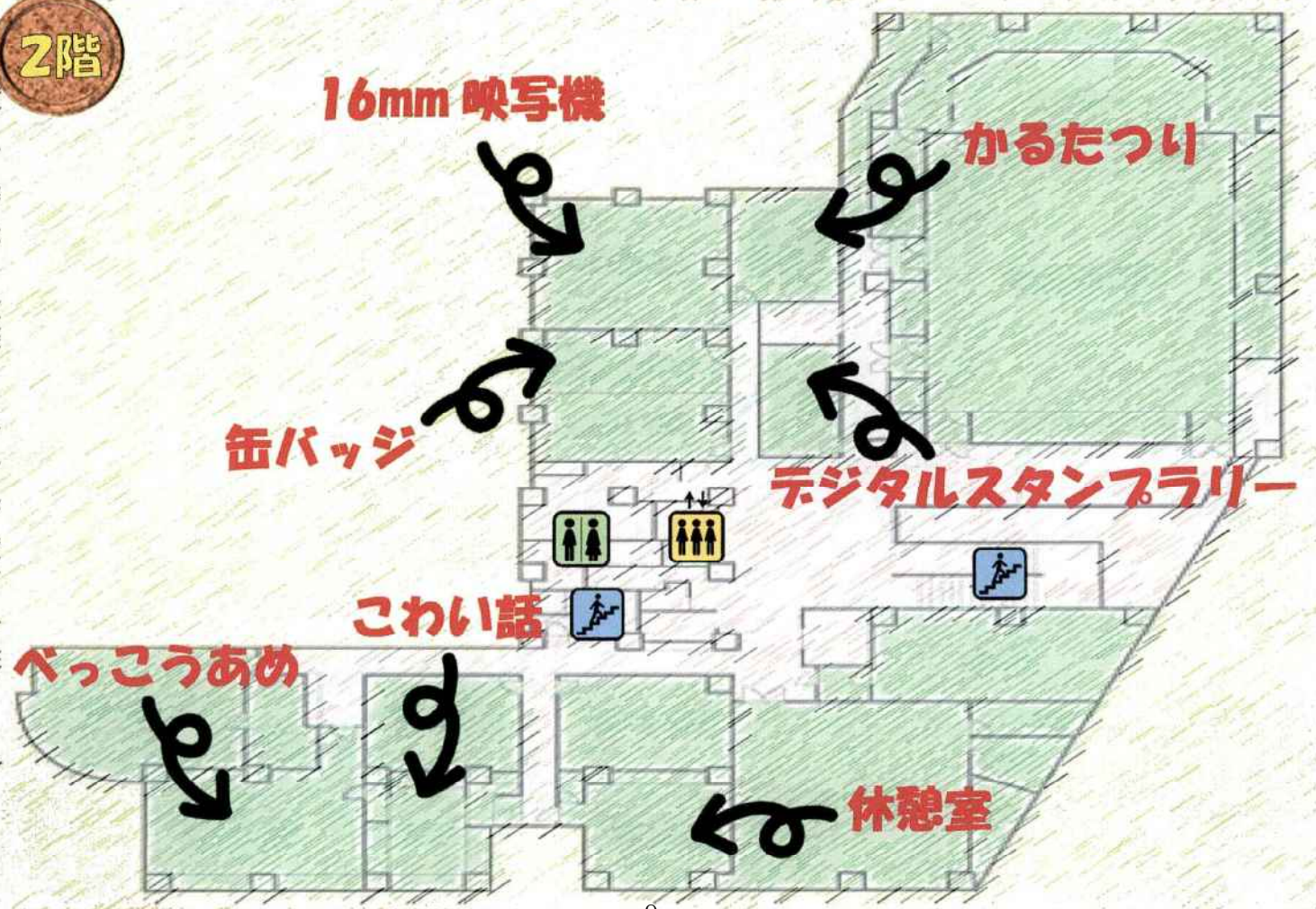
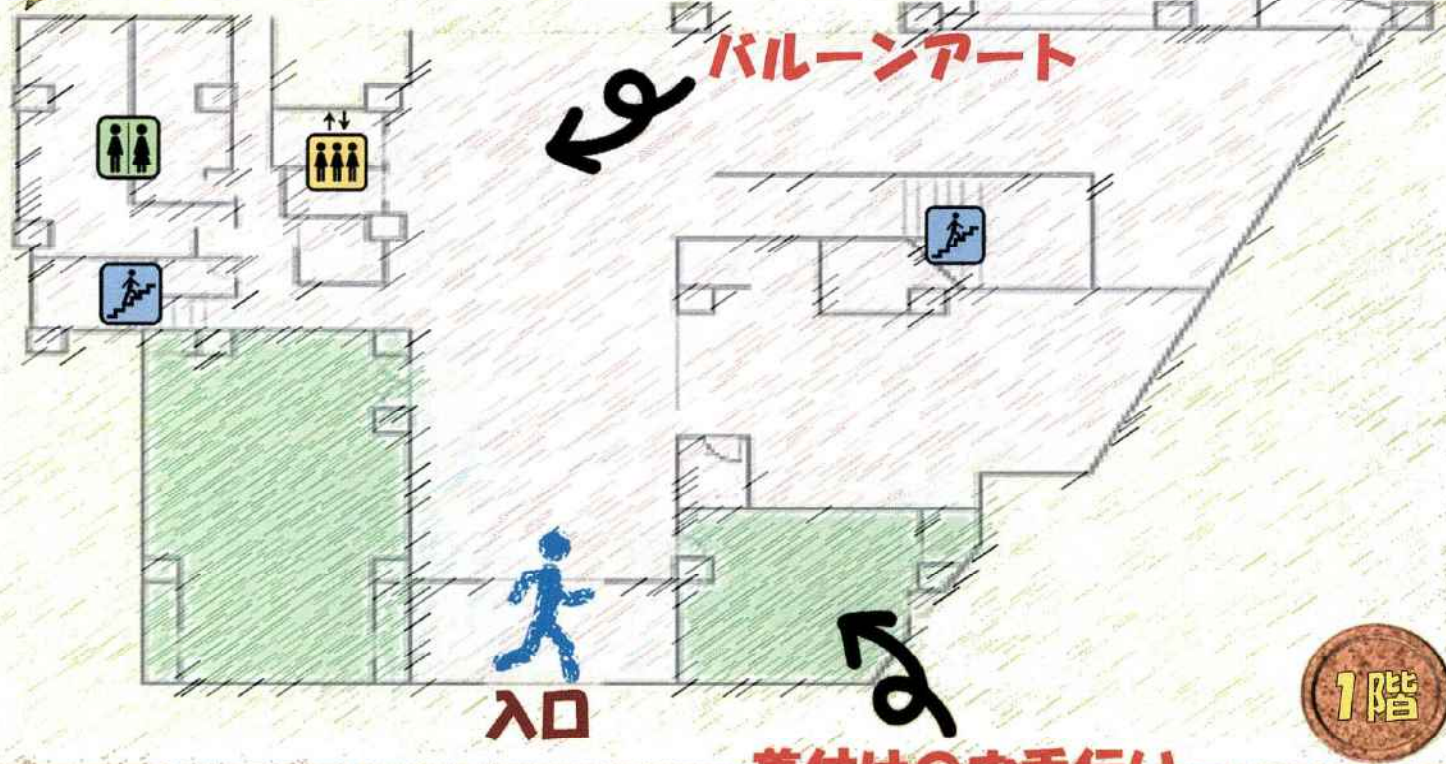
夜の市民館で怪談話を聞いてヒヤッと体験！眠れなくなったらごめんなさい。

べっこうあめづくりを見学！

料理室で作ります。お一人様1個プレゼント！

本イベントはコアまつりが中止又は27日に順延した場合は中止となります。

問合せ先：中原市民館 044-433-7773 閉館時間：21：00



川崎市市制100周年記念

なかはら

コア

まつり

今年は市制
99周年!



2024年、川崎市は市制100周年をむかえます。

イベント

◎ステージ (16:00～)

- ・ In Unityスペシャルライブ
- ・ 和太鼓の演奏 (武蔵野太鼓)
- ・ 川崎純情小町★
- ・ なかはらインクルーシブダンス



◎盆踊り (19:10～19:50)

中原区のキャラクターと一緒に踊ろう!

◎特別企画 (18:30～19:10)

めざせ100人! / なかはらColors, Future音楽隊

区民とプロの楽器奏者などが一夜限りの大合奏を行います。
会場に用意してあるカスタネットや鈴などで参加しよう!

※楽器は数に限りがあります



ロージーちゃん



ミミケロ

出店ブース

体験 展示

- ・ ペットボトルキャップアート
- ・ おえかきコンテスト
- ・ スポーツ体験
- ・ ゼロ円スーパー
- ・ 花のまちにしちゃおうPJ
- ・ 市制100周年 行政啓発ブース

ほか

遊ぶ

- ・ バルーンアート
- ・ ヨーヨー釣り
- ・ スーパーボールすくい
- ・ 金魚すくい
- ・ こどもくじ
- ・ むかしあそび

食べる

- ・ KOSUGI CURRY
- ・ Colors, Future かき氷
- ・ 塩焼きそば
- ・ お酒とおつまみ

ほか

8月26日(土) 16:00～20:00

※荒天の場合は8月27日(日)に順延

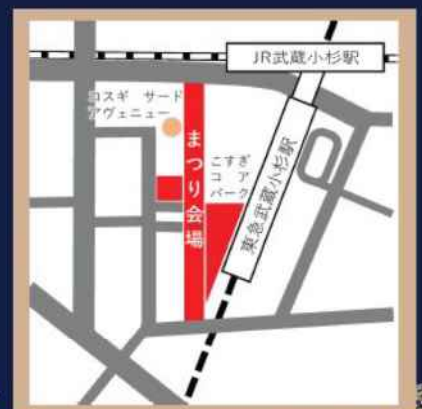
会場

こすぎコアパーク
市道小杉町21号線

コスギ サード アヴェニュー サウスパーク



詳細は区HPで



主催：中原区における川崎市制100周年記念イベント実行委員会

問い合わせ：中原区役所まちづくり推進部企画課

TEL:044-744-3149 FAX:044-744-3340

E-mail:65kikaku@city.kawasaki.jp



2 今後の展望

(1) 中原市民館紹介動画の作成

「ふらっと立ち寄れる市民館」を実現する手法について専門部会で検討を進めたところ、まずもって中原市民館をさらに広く知ってもらうためが必要と言う共通理解を得るに至った。

どのような手法で、中原市民館の周知を進めるかという話し合いの中で、「この市民館を利用したことがある人は、仕組みを理解しているかも知れないが、来たことも無い人に、どのように市民館の存在を知らせるかが必要」という意見があり、さらに検討を重ねた。

様々な意見がある中で、「写真ではなく動画。中原市民館の紹介動画のようなものがあれば良い。」という意見が出された。

これを受け、専門部会では、まずどのような動画とするか、誰を中心として作るのかという意見交換がなされたが、1年にわずか4回の専門部会の開催日数で、意見交換もしながらこれを完成させるのは難しいという結論に至った。

動画作成については、期限が決まっているわけではないものの、委員の間では機運が盛り上がっていたため、今後は専門部会の委員の有志で構成するワーキンググループを作り、専門部会とは別に会合を重ね、進めていくこととした。

ワーキンググループでの検討経過と実際の動画作成の進捗状況については、適宜専門部会に報告しながら進めるということで合意形成を図った。

具体的には、委員からの「みんなで参加したい。」という意向を踏まえて、任期が切れても参加して構わないという方は参加できるという前提の元、今期委員全員に連絡をした上で、参加可能な委員で進めることとし、年度内に1回はワーキングを行うこと、委員各々が所属する団体などが中原市民館を会場にイベントを実施する際には、素材となる動画を撮り溜めておくのを宿題とすることなどを決定し、紹介動画作成作業をすすめることとなった。

(2) 図書館との連携

「ふらっと立ち寄れる市民館」を実現に向けて、他機関との連携を視野に入れていく。

同じ社会教育施設である図書館との連携として、川崎市制100周年に係る企画として、「絵本作り講座」を実現した。この成果を活かして、図書館、市民館双方で、企画テーマに係るブースをつくって常時変えていくなど、更なる連携をしながら、図書館との連携を通じた「ふらっと立ち寄れる市民館」の実現をしていく。

また、以前には、職員が企画を立てる段階で図書館職員に話すと、関連する本を見繕って渡してくれ、企画結果についてチラシを作って報告すると、募集期間に図書館のラックに関係する本を並べておいてくれて、チラシも貼って事前のPRをしてくれた。さらに、当日になると、受講してくれた市民が図書館に行くと、関連本、講師の本などを並べてくれていたという経緯があり、図書館としても、関心を持っている人たちに本を届けられるというメリットがあると想定されるので、市民館は連携していくことが大事だし、連携していくべき施設だと思うので、普通のこととして交流していたものが、現在無くなっているのなら、復活させていく。また、市民館は区役所に属しているのだから、区役所の方とも連携についても模索していく。

(仮) 委員から一言

部会長 鈴木 保

副部会長 菊地 美和子

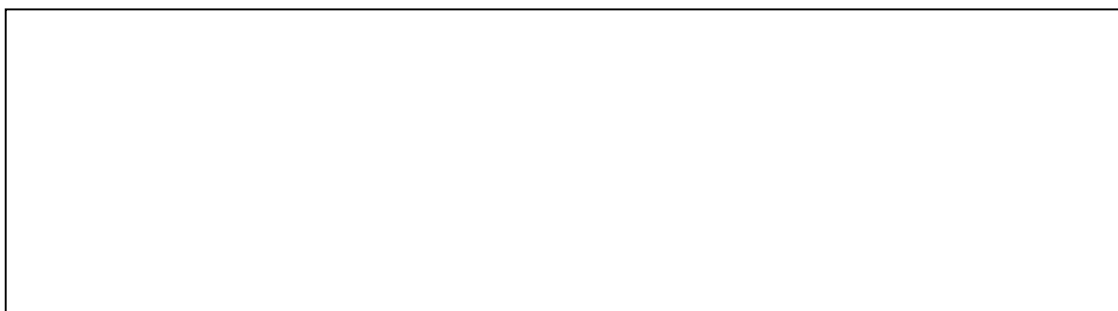
梶川 明美

中道 弥生

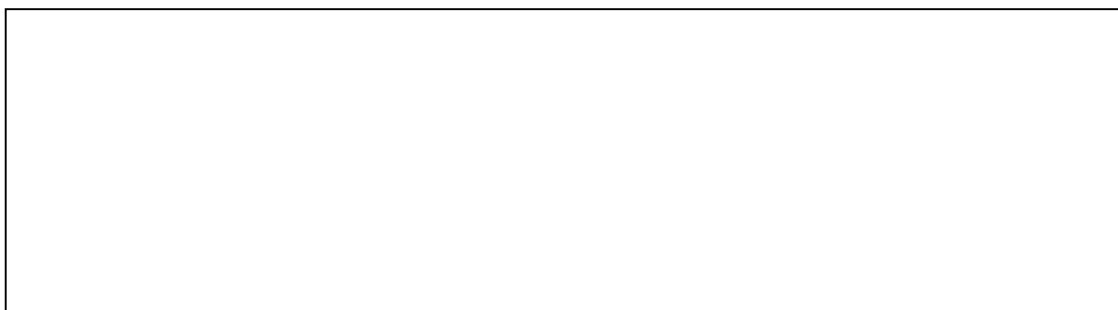
但野 文子

A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for a signature or stamp.

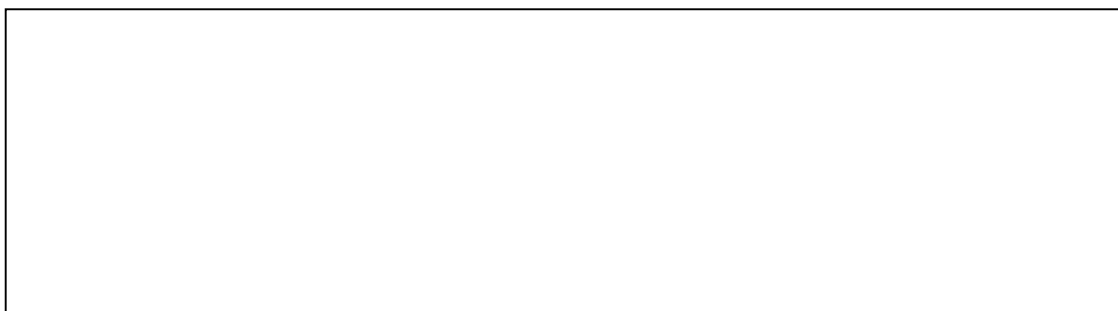
滝沢 甲子男

A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for a signature or stamp.

木村 利恵

A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for a signature or stamp.

日吉 のぞみ

A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for a signature or stamp.

令和4・5年度 川崎市社会教育委員会 中原市民館専門部会

○委員

部会長	鈴木 保	(市民委員)
副部会長	菊地 美和子	(川崎市立下河原小学校校長)
	梶川 明美	(中原区文化協会理事)
	中道 弥生	(中原市民館サークル連絡会会計)
	但野 文子	(中原区地域教育会議副議長)
	滝沢 甲子男	(中原区子ども会連合会副会長兼事務局長)
	木村 利恵	(明治大学兼任講師)
	日吉 のぞみ	(中原区PTA協議会)

○令和4年度実施経過

・第1回専門部会	令和4年 8月 3日 (金) 10時～	第1会議室
・第2回専門部会	令和4年10月18日 (火) 10時～	第3・4会議室
・第3回専門部会	令和4年12月12日 (月) 14時～	第3・4会議室
・第4回専門部会	令和5年 2月 5日 (日) 15時～	視聴覚室

○令和5年度実施経過

・第1回専門部会	令和5年 6月23日 (金) 10時～	第2会議室
・第2回専門部会	令和5年 8月 1日 (火) 14時～	第2会議室
・第3回専門部会	令和5年12月15日 (金) 10時～	グループ室
・第4回専門部会	令和6年 2月17日 (土) 13時30分～	音楽室

専門部会審議報告書

部 会 名	第 1 回 川崎市社会教育委員会議 中原市民館専門部会
開催日時	令和 4 年 8 月 3 日（水） 10：00～11：40
場 所	中原市民館 第 1 会議室
出 席 者	<委員> 菊地委員、梶川委員、但野委員、滝沢委員、鈴木委員、木村委員 （欠席者 2 名 中道委員、日吉委員） <事務局> 石川館長、船津係長、小栗係長、大久保主任
議事項目	(1) 部会長・副部会長の選出について (2) 市民館の管理運営について (3) 社会教育振興事業について (4) 令和 4・5 年度の調査審議について

決定・確認事項
(1) 部会長・副部会長の選出について 部会長は鈴木委員、副部会長は菊地委員に決定 (2) 市民館の管理運営について ・事務局が説明し了承 (3) 社会教育振興事業について ・事務局が説明し了承 (4) 令和 4・5 年度の調査審議について ・調査研究テーマについて、次回以降も引き続き議論する
主な意見
・コロナ禍もあるが、今年度の事業は以前と同様に実施するのか。（感染状況を注視し、臨機応変に対応する必要があると考えている。） ・短期の学級が多いが、市民の関係性を築く試みにつながっているか。（市民自主事業につながった事例もある。） ・アウトリーチなどの話もあるが、地域の中での講座はどのようにしているのか。（市内学校の協力を得て、学校を会場にしたり、生涯学習財団と連携して、生涯学習プラザを会場に講座を実施するなどしている。） ・まちづくりのことが気になっている。子どもたちや地域の人と考える機会があると良いと思う。 ・中原区の地域を見学するなど、見て学ぶ機会があると良いのではないか。 ・活動報告書には、各市民館の過去のテーマが掲載されているが、「子ども」というキーワードが出ているのは中原市民館のみ。中原らしいと思う。 ・令和 7 年度からは中原市民館も指定管理者制度に移行する予定だと聞いている。その前に専門部会として、市民館の良さをきちんと総括しておくことが必要ではないか。
その他
特になし

専門部会審議報告書

部 会 名	第2回 川崎市社会教育委員会議 中原市民館専門部会
開催日時	令和4年10月18日（火）10:00～11:30
場 所	中原市民館 第3・4会議室
出席者	<委員> 鈴木部会長、菊地副部長会、中道委員、但野委員、滝沢委員、木村委員、日吉委員 （欠席者1名 梶川委員） <事務局> 石川館長、船津係長、小栗係長
議事項目	(1)市民館の管理運営について (2)社会教育振興事業について (3)令和4・5年度の調査審議について

決定・確認事項
(1) 市民館の管理運営について ・事務局が説明し了承 (2) 社会教育振興事業について ・事務局が説明し了承 (3) 令和4・5年度の調査審議について ・調査研究テーマについて、次回以降も引き続き議論する
主な意見
・市民館の活動も、地域の子どもたちが大人になった時に、地域に戻って活動できるような取り組みに繋がると良いと思う。 ・市民館の利用者が限られているように感じるので、市民館の存在を知ってもらうことも必要なのではないか。 ・サークル活動では、コロナ禍で会員が減少している。どのようにしたら活動をPRできるのかが懸案で、SNSも利用するなど工夫している。 ・武蔵小杉駅周辺は居住者も多いし、活動したい人も多くいるようにも思うが、他方で市民館自体は大きくないので、体育室にしても予約を取るのが困難な状況になっている。 ・シニアの方はシニアの方など、横のつながりが無いので、つながりを作るのがとても難しい地域ではあるが、つながりができる機会があると良いと思う。 ・今後指定管理者制度に移行していくことを踏まえて、この2年間の議論を行いたい。
その他
特になし

専門部会審議報告書

部 会 名	第3回 川崎市社会教育委員会議 中原市民館専門部会
開催日時	令和4年12月12日（月）14：00～16：30
場 所	中原市民館 第3・4会議室
出席者	<委員> 鈴木部会長、菊地副部長会、梶川委員、中道委員、但野委員、滝沢委員、木村委員 （欠席者1名 日吉委員） <事務局>石川館長、船津係長、小栗係長
議事項目	(1)市民館の管理運営について (2)社会教育振興事業について (3)令和5年度市民自主学級、市民自主企画事業の選考について (4)令和4・5年度の調査審議について

決定・確認事項
(1) 市民館の管理運営について ・事務局が説明し了承 (2) 社会教育振興事業について ・事務局が説明し了承 (3) 令和5年度市民自主学級、市民自主企画事業の選考について ・事務局が説明し了承 (4) 令和4・5年度の調査審議について ・調査研究テーマについて、次回以降も引き続き議論する
主な意見
・最後は、人と人のつながりだと思っている。 ・地域のつながりは、大事なことだと思うし、市民館のいまの活動のあり方などもテーマとして良いのではないか。 ・引っ越してきた方や、仕事を引退された方などが何か始めるきっかけになる役割を、中原市民館がより一層担えると良い ・子どもの貧困などが気になっている。 ・テーマがとても大事だと思う。これまでの話から「生きがいつくりを見つけられる市民館」というあたりで、仮のテーマとして置いてみたらどうか。 ・「これからの市民館に期待するもの」が良い。
その他
特になし

専門部会審議報告書

部 会 名	第4回 川崎市社会教育委員会議 中原市民館専門部会
開催日時	令和5年2月5日（日） 15：00～16：30
場 所	中原市民館 視聴覚室
出 席 者	<委員> 鈴木部会長、菊地副部長会、梶川委員、中道委員、但野委員、 滝沢委員、木村委員、日吉委員 <事務局> 石川館長、船津係長、小栗係長
議事項目	(1) 令和5年度市民自主学級、市民自主企画事業の選考について（非公開） (2) 令和4年度第3回専門部会の議事録（案）について (3) 令和4・5年度の調査審議について

決定・確認事項
(1) 令和5年度市民自主学級、市民自主企画事業の選考について（非公開） ・市民自主学級（諾1件、否0件） ・市民自主企画事業（諾3件、否0件） (2) 第3回専門部会の議事録（案）について ・事務局が説明し了承 (3) 令和4・5年度の調査審議について ・調査審議テーマを「（仮）ふらっと立ち寄れる市民館」に決定
主な意見
・
その他
特になし

専門部会審議報告書

部 会 名	令和5年度第1回 川崎市社会教育委員会議 中原市民館専門部会
開催日時	令和5年6月23日（金） 10:00～11:25
場 所	中原市民館 第2会議室
出席者	<委員> 鈴木部会長、菊地副部会長、梶川委員、中道委員、但野委員、滝沢委員、日吉委員 （欠席者1名 木村委員） <事務局> 福田館長、船津係長、小栗係長、大久保係長、中島職員
議事項目	(1) 市民館の管理運営について (2) 社会教育振興事業について (3) 令和5年度の調査審議スケジュールとテーマについて

決定・確認事項
(1) 市民館の管理運営について ・事務局が説明し了承 (2) 社会教育振興事業について ・事務局が説明し了承 (3) 令和5年度の調査審議スケジュールとテーマについて ・「ふらっと立ち寄れる市民館」とするには、市民館の存在の周知が重要。 ・「ふらっと立ち寄れる市民館」とするための具体的なアイデアを引き続き議論する。
主な意見
(1) に関して ・体育室の予約がなかなかとれない。これは以前から要望していることだが改善されない。時間帯を細分化することはできないのだろうか。 (3) に関して ・市民館に来たことがない人に、どのように存在を知らせるか。 ・ワクチンの接種会場となって初めて知ったという人もいる。まずは中原市民館の存在を知ってもらうことが必要。 ・紹介動画があるとよいのではないか。動画を子供たちに作ってもらうとか。 ・サークルの活動や利用している様子など、何が行われているか知ってもらう。 ・市民館での居場所づくり。予約が入っていない部屋の開放など新たな利用方法の検討。
その他
傍聴者：なし

専門部会審議報告書

部 会 名	令和5年度第2回 川崎市社会教育委員会議 中原市民館専門部会
開催日時	令和5年8月1日（火） 14：00～16：00
場 所	中原市民館 第2会議室
出席者	<委員> 鈴木部会長、梶川委員、但野委員、滝沢委員、木村委員、日吉委員 （欠席者2名 菊地副部会長、中道委員） <事務局> 福田館長、船津係長、小栗係長
議事項目	(1) 令和4・5年度中原市民館専門部会報告書の取りまとめについて (2) なかはらコアまつり（8月26日）での中原市民館紹介ブースの出店、コラボイベントの実施 (3) 中原市民館紹介動画の作成（試行） (4) 「ふらっと立ち寄れる」市民館を実現するためのアイデア提案

決定・確認事項
(1) (2) (3) ・ 今期の研究課題である「ふらっと立ち寄れる市民館」を実現するための第一歩として、「市制100周年記念 なかはらコアまつり プレイメント」と同日市民館が独自で行うコラボイベントに専門部会として参加する。 ・ 「コアまつりワーキング」と「動画作成ワーキング」をそれぞれ立ち上げ、適宜開催する。 ・ 「コアまつりワーキング」は8月8日午後に開催する。 (4) ・ (2) (3)は市民館を知ってもらうための取組であり、これらを進めながら、さらに、「ふらっと立ち寄れる市民館」を実現するためのアイデア（要望、思いなど）について議論していく。
主な意見
・ 来年度は中原市民館開館50周年・改築移転15周年でもあるので、それに向けて、第2弾、第3弾の手を打てるよう、関係団体にも協力を呼び掛けていくのがよいのではないか。 ・ 報告書には実際にやったことだけでなく、先を見ているということが伝わる内容になればよいと思う。
その他
傍聴者：なし

専門部会審議報告書

部 会 名	令和5年度第3回 川崎市社会教育委員会議 中原市民館専門部会
開催日時	令和5年12月15日（金）10:00～12:30
場 所	中原市民館 グループ室
出 席 者	<委員> 鈴木部会長、菊地副部会長、梶川委員、中道委員、但野委員、木村委員、日吉委員 （欠席者1名 滝沢委員） <事務局> 福田館長、船津係長、大久保係長
議事項目	(1) 中原市民館の指定管理者制度導入に係る進捗状況について (2) 市民館と図書館合同で取り組む来年度の市制100周年事業について (3) 令和4・5年度審議テーマ「ふらっと立ち寄れる市民館」のまとめについて

決定・確認事項
(1) (2) ・教育委員会生涯学習推進課から専門部会委員へ説明があり、意見交換を行った。 (3) ・中原市民館をさらに広く知ってもらうための取組の一つとして、中原市民館の動画作成を専門部会の有志の方で構成するワーキンググループで進め、ワーキンググループでの検討経過を専門部会に報告し、意見交換をしながら進めることを再確認した。 ・報告書については、2月の専門部会で最終的な案を提示するというスケジュールで進め、3月末までに完成させる。
主な意見
・指定管理者制度への移行が心配。 ・指定管理者制度への移行について、各館の専門部会の委員に意見をもらえると良いのではないか。 ・動画ワーキングは、メンバーを全員の委員としたい。 ・報告書には、各委員の思いなどをつづってもらえたら良い。 ・市民がふらっと立ち寄った際に受け止められる職員の専門性と、専門性を持つ職員を育てる環境が必要。
その他
傍聴者：1名

専門部会審議報告書

部 会 名	令和5年度第4回 川崎市社会教育委員会議 中原市民館専門部会
開催日時	令和6年2月17日（金） 13：30～
場 所	中原市民館 音楽室
出席者	＜委員＞ ＜事務局＞
議事項目	

決定・確認事項
主な意見
その他

令和4・5年度 川崎市社会教育委員会議 中原市民館専門部会報告書

ふらっと立ち寄れる市民館

編集 川崎市社会教育委員会議 中原市民館専門部会

発行 令和6年3月

川崎市中原市民館（中原区役所まちづくり推進部生涯学習支援課）

電 話 044-433-7773

FAX 044-430-0132